

Ⅱ－31 神寄川における環境調査

(株) 芙蓉調査設計事務所 正会員 佐伯 由男

1. 調査地概要

愛媛県道後平野の南部に位置する松前町は、(一) 重信川とその支川による氾濫堆積物などによって形成された地形である。豊かな伏流水を有する重信川の影響で多くの泉が見られ、古くから農耕に用いられてきた。本調査河川である(二) 神寄川は、その泉の一つである福德泉に発し、国道 56 号線で(二) 大井手川に合流する。流域面積は 2.11km² で大半は平地であり、流路延長は 2.478km である。福德泉からの湧水と、本調査河川内で数箇所で見られる湧水の影響で、通常の河川より透明度が高く、年間を通じて水温変動の少ない環境となっている。このため、みお筋には豊富な水草類が見られ、貴重種などが多くの群落を形成している。水際部や河原には湿生植物や河辺植物が繁茂し、近年では少なくなった自然河川の様相を呈している。また、周辺には広く農耕地が見られる。このように湧水河川で、両岸には水辺の植物が茂り、「春の小川」そのものの風情となっている景観は道後平野においては、ここだけになってしまいました。

2. 調査範囲

調査範囲は各調査で多少異なるが、周囲が田畑をはじめとした民地であるため、基本的に低水敷までとし、必要に応じて田畑の周辺などを含めた。全体の調査範囲は延長 200m とした。

3. 調査時期および方法

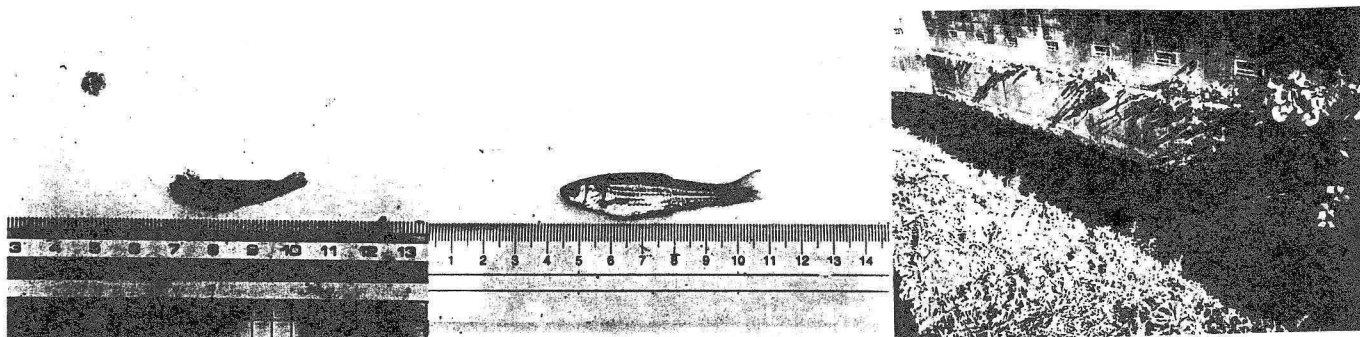
○ 魚介類	〔投網・タモ網・セルビン〕	〔夏季〕
○ 底生動物	〔底性採集 (タモ網)〕	〔春季〕〔夏季〕
○ 植物	〔植生図作成調査・群落組成調査 植物相調査・植生断面図作成調査〕	〔春季〕〔秋季〕
○ 鳥類	〔定点記録法〕	〔春季〕〔夏季〕〔秋季〕〔冬季〕
○ 両性・爬虫・哺乳類	〔捕獲・目視確認法 フィールドサイン法・トラップ法〕	〔秋季〕
○ 陸上昆虫類	〔任意採集法・ベイトトラップ法〕	〔春季〕〔夏季〕〔秋季〕

4. 調査写真

(メダカ)

(タモロコ)

(コウホネ群落)



5. 調査結果

特定種一覧表

番号	調査項目	分類	種 名	備考	レッドデータブック				
					松山市	愛媛県	環境省	高知県	徳島県
1	魚 介 類	魚類	タモロコ		準絶滅			地域個体	準絶滅
2			アブラボテ		危惧Ⅰ	危惧Ⅰ			
3			(ヤリタナゴ)		危惧Ⅰ	危惧ⅠB		危惧ⅠB	留意
4			メダカ		危惧Ⅱ	危惧Ⅱ	危惧Ⅱ	危惧ⅠB	危惧Ⅱ
5	底生動物	甲殻類	ミナミヌマエビ		準絶滅	準絶滅			危惧Ⅱ
6			モクズガニ						危惧Ⅱ
7		貝類	モノアラガイ				準絶滅		
8	植 物	草本類	コギシギシ		情報不足	準絶滅	危惧Ⅱ	危惧Ⅱ	準絶滅
9			コウホネ	水草	危惧ⅠA	危惧Ⅱ		危惧ⅠB	危惧Ⅰ
10			マツモ	水草	危惧Ⅱ				
11			コイヌガラシ		危惧Ⅱ	準絶滅	準絶滅	絶滅	準絶滅
12			ヌマゼリ		危惧ⅠB		危惧ⅠB	危惧ⅠA	絶滅
13			カワヂシャ		準絶滅		準絶滅	準絶滅	準絶滅
14			セキショウモ	水草	危惧Ⅱ	準絶滅			
15			ヤナギモ	水草	危惧Ⅱ				
16			ナガエミクリ	水草	危惧Ⅱ		準絶滅	危惧ⅠA	準絶滅
17			コガマ		危惧Ⅱ				危惧Ⅰ
18	鳥 類	鳥類	タゲリ	冬鳥				準絶滅	
19			カワセミ	留鳥				準絶滅	
20			コシアカツバメ	夏鳥				準絶滅	
21			アオジ	冬鳥				情報不足	
22			ヒクイナ			準絶滅			
23	両性	哺乳類	カヤネズミ		準絶滅				
24	・爬虫	爬虫類	クサガメ		準絶滅				
25	・哺乳類		ヤマカガシ		危惧Ⅱ	低地減少			
26	陸上 昆虫類	昆虫類	ギンヤンマ					準絶滅	
27			ミイデラゴミ ムシ		準絶滅				

※ ヤリタナゴは2001年度予備調査で確認